

# 2012年3月期 決算説明会資料



グローバル・ゼラチンスペシャリスト  
新田ゼラチン株式会社

2012年5月11日

- 1. 事業概要**
- 2. 2012年3月期実績**
- 3. 2013年3月期見通し、  
中期・長期展望**
- 4. 巻末資料**

〈ご案内〉

本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は、資料作成時点での弊社の判断であります。その情報の正確性を保障するものではありません。市場環境等の様々な要因により、今後の業績は本資料の内容と異なるものとなる可能性があります。ご承知おきのほど、お願い申し上げます。

# 1. 事業概要

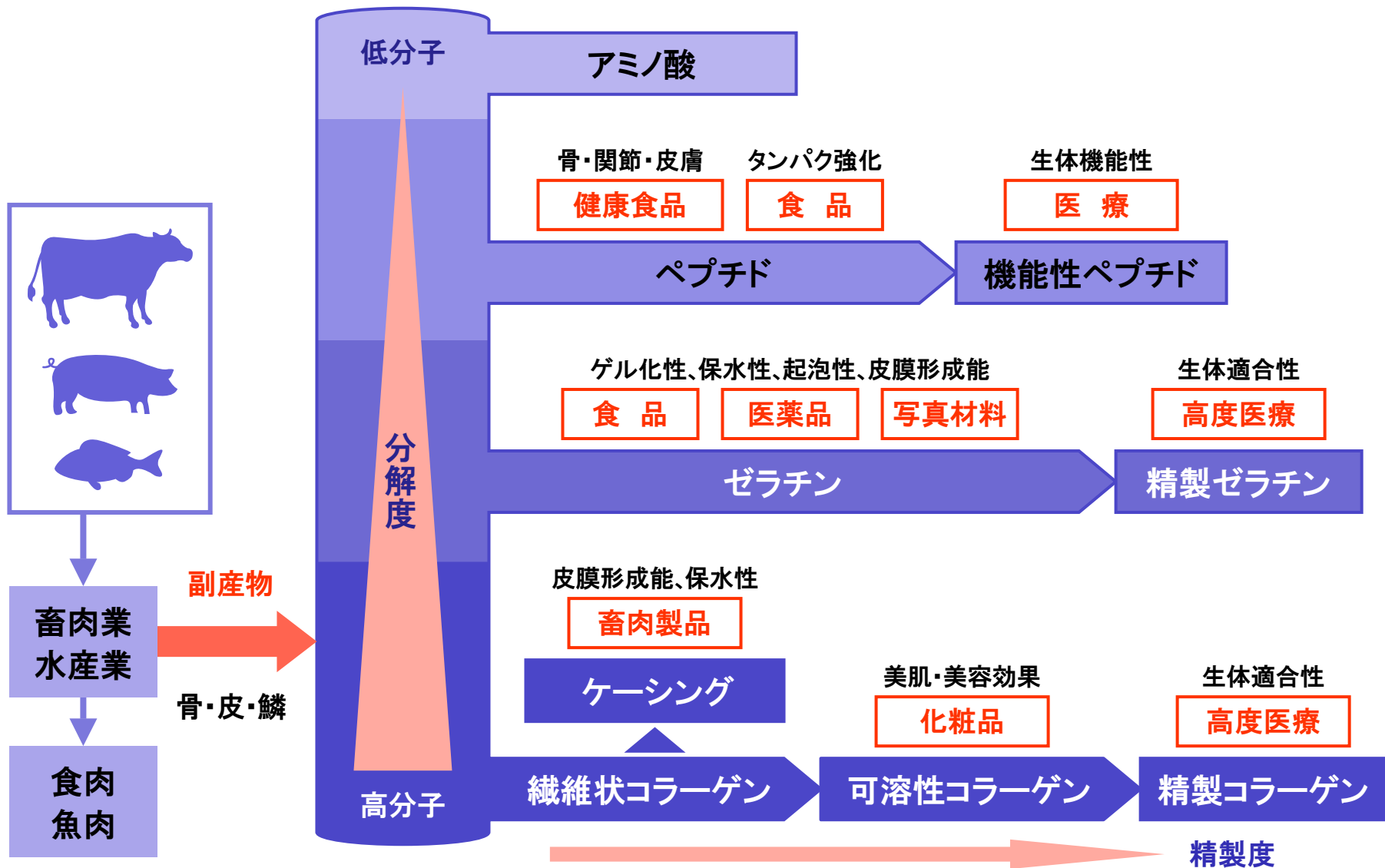
## 会社概要

会社名	新田ゼラチン株式会社 ( Nitta Gelatin Inc. )
代表者	代表取締役社長 曾我 憲道 (そが のりみち)
本社	大阪市浪速区桜川4丁目4番26号
創業	1918年(大正7年)1月
設立	1945年(昭和20年)2月
資本金	1,577百万円
売上高	単体:205億円 (2012年3月期) 連結:277億円 (2012年3月期)
従業員数	単体:254名 (2012年3月末現在) 連結:592名 (2012年3月末現在)
事業内容	ゼラチンの製造・販売 コラーゲンペプチドの製造・販売 コラーゲンケーシングの製造・販売 医療用ゼラチン・コラーゲンの研究・開発 食品材料の製造・販売 接着剤の製造・販売

## 事業セグメント・部門と主要製品

事業セグメント	部門	主要製品および分野
コラーゲン 素材事業	ゼラチン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食用ゼラチン（パン・菓子製造業、総菜製造業、冷凍調理食品製造業等） → グミやマシュマロ等の製菓、各種食品、コンビニ惣菜や冷凍食品 等</li> <li>・ カプセル用ゼラチン（医薬品製造業、健康食品等の食品製造業） → ハード・ソフトカプセル、ミニカプセル 等</li> <li>・ 写真用ゼラチン（写真感光材料製造業） → カラーフィルム・印画紙、レントゲンフィルム 等</li> </ul>
	ペプチド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラーゲンペプチド（乳製品製造業、飲料業やパン・菓子製造業） → 栄養補助食品、サプリメント、機能性栄養食品 等</li> </ul>
	ケーシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コラーゲンケーシング（畜産食料品製造業） → ソーセージ、スナック類</li> </ul>
	ライフ サイエンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究用・生体材料コラーゲン、ゼラチン（医療機器メーカーや研究機関） → 組織培養用研究試薬、人工皮膚や人工骨等</li> </ul>
フォーミュラ ソリューション 事業	食品材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食用ゲル化剤、各種品質安定剤（食料品製造業） → デザートゼリー、総菜、畜肉製品等</li> </ul>
	接着剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホットメルト形接着剤（各種産業分野） → 包装、製本、建材、衛生材料等。</li> <li>・ にかわ系接着剤（紙加工品製造業） → 製本や紙器、紙工等</li> <li>・ 高機能樹脂（電気機械器具製造業等） → 家電製品、電子機器等</li> </ul>

## コラーゲンとゼラチン、コラーゲンペプチドの関係



## 当社の特徴

- ゼラチンシェア

国内 ▶ トップ、世界 ▶ 第4位

- 成長する3本柱

ゼラチン、ペプチド、ケーシング

- グローバルネットワーク

北米・アジアに事業拠点、販売網を構築

- ソリューション<sup>リョク</sup>力

アプリケーション開発・提案

## 2. 2012年3月期実績



# ハイライト

## 売上の状況

売上高: 27,763 百万円  
(前期比  $\Delta 0.6\%$ )  
海外売上比率 27.8%



- 国内は、食品市場向けのゼラチン、食品材料が堅調に推移。
- 海外の食・医市場も堅調。北米現法のゼラチン売上は前期比15%増も、円高により邦貨換算高は減殺。

## 利益の状況

営業利益: 2,015百万円  
営業利益率: 7.3%  
(前期比  $+35.6\%$ )  
当期純利益: 1,375百万円  
当期純利益率: 5.0%  
(前期比  $+30.8\%$ )



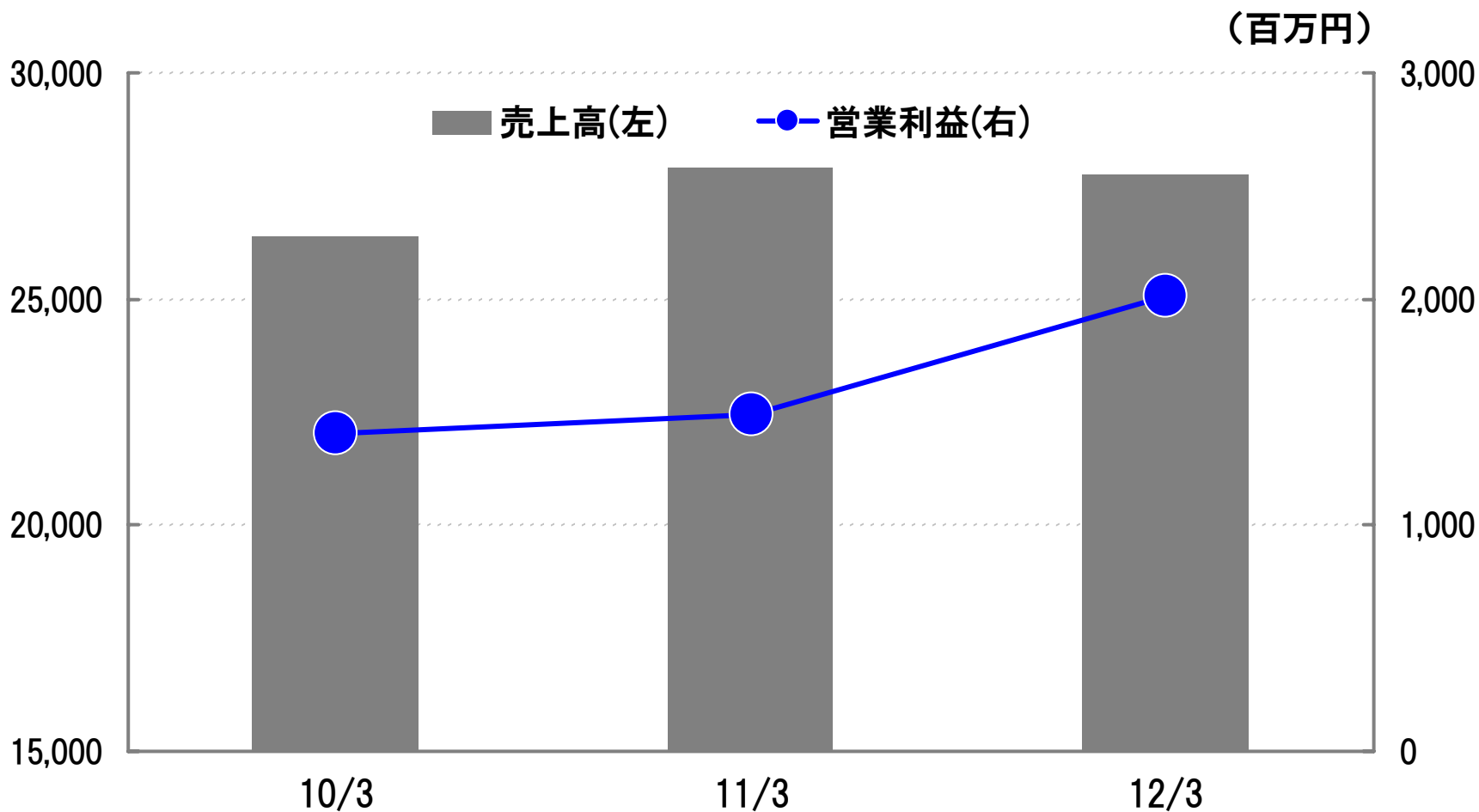
- 国内販売の増収効果、コスト削減等により原価改善
- 円高による海外仕入コストが減少

## トピックス

- 東京証券取引所市場第二部に上場 (2011年12月)
- 中国でのコラーゲンケーシング合弁事業の契約調印 (2012年3月)
- 中国国際食品添加剤・素材展覧会(FIC2012)に、当社ゼラチン・ペプチドを出展 (2012年3月)

# 業績推移

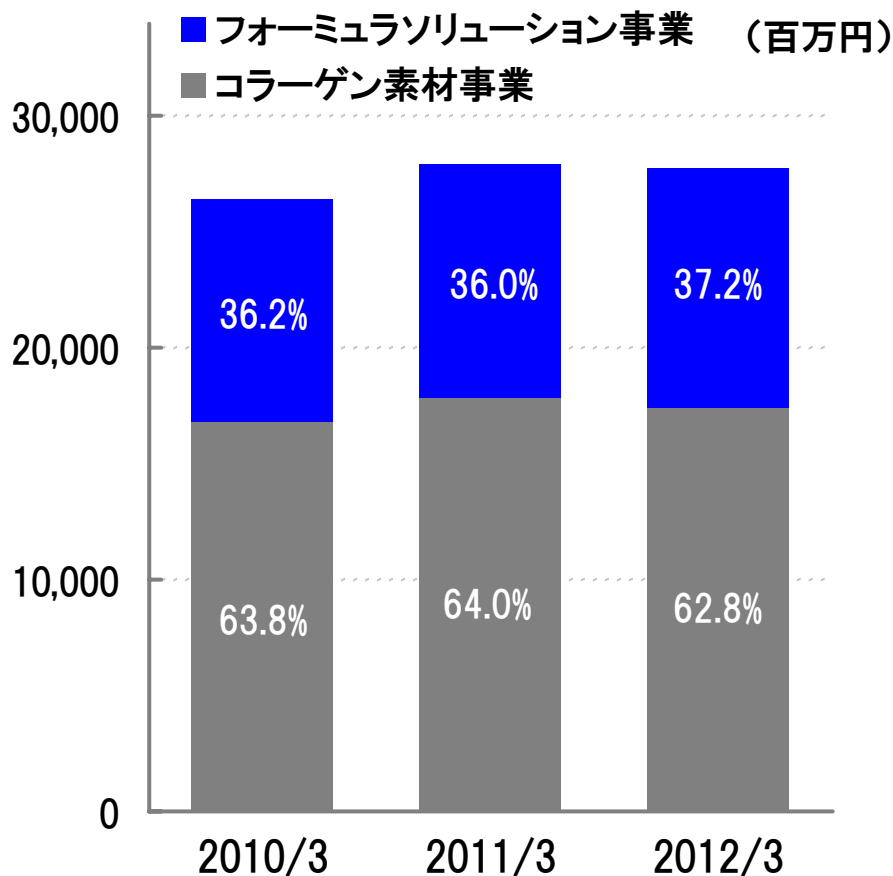
■ 売上高は前期比 $\Delta 0.6\%$ で微減だが、営業利益は前期比 $+35.6\%$ の大幅増益。



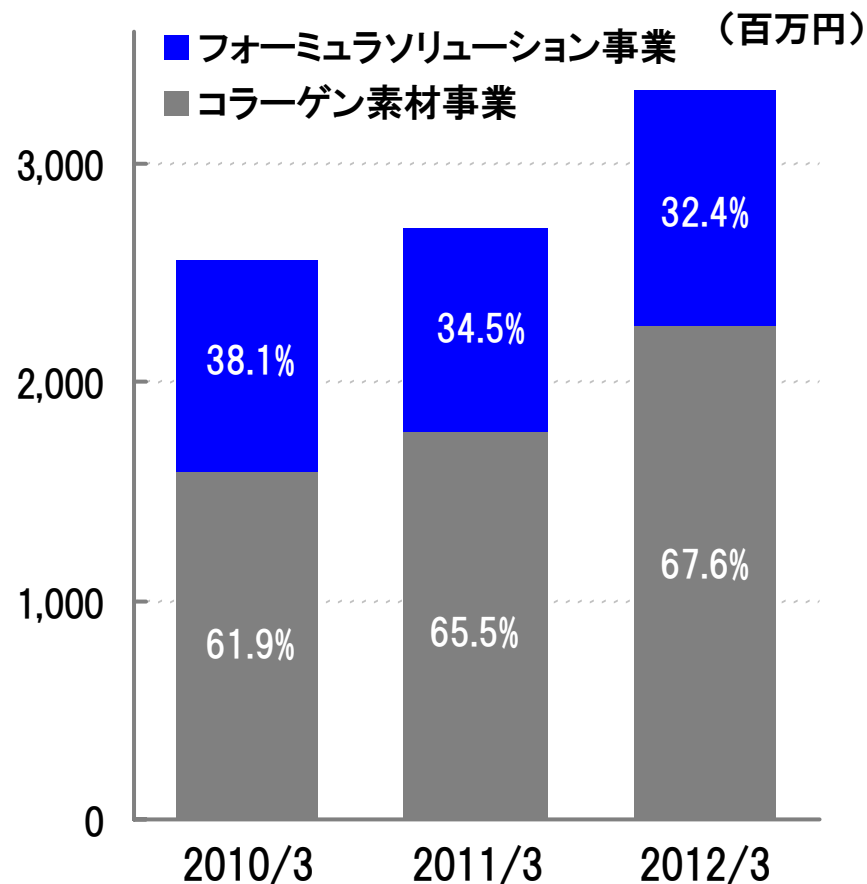
# セグメント構成比推移

■ 売上高構成比は大きな変動なし。営業利益は、コラーゲン素材事業が伸長。

売上高



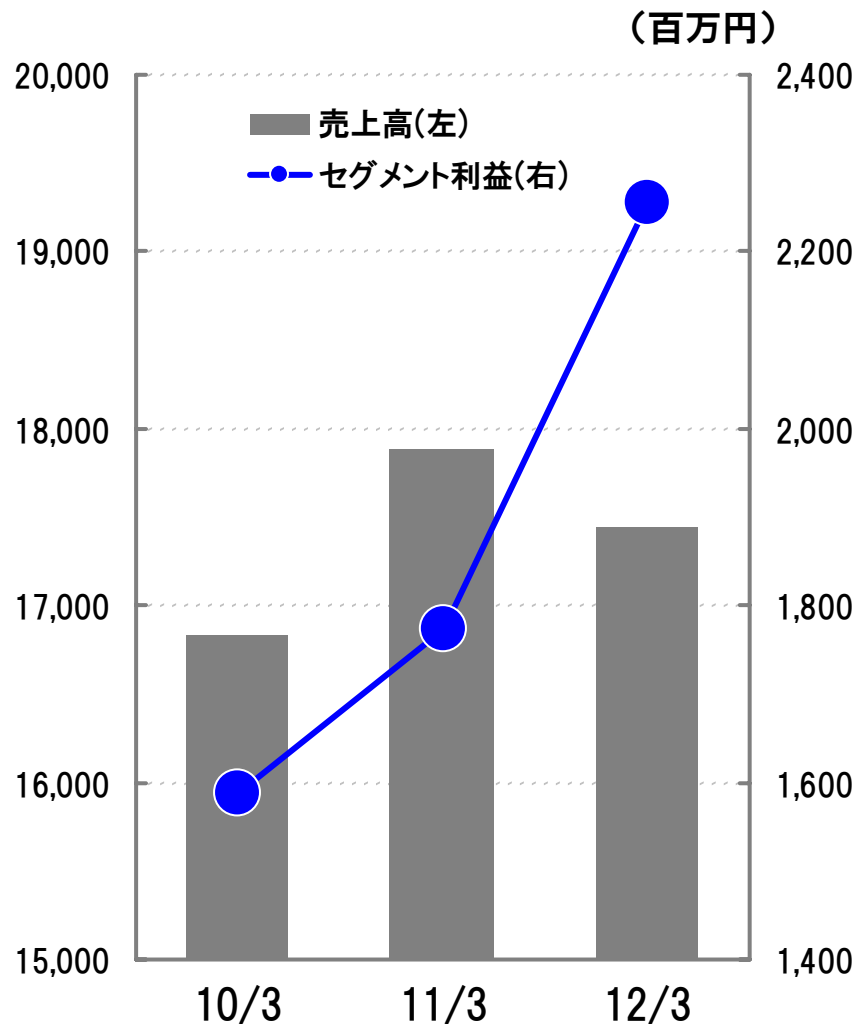
営業利益(連結消去前)



# コラーゲン素材事業

売上高 17,433 百万円 (前期比  $\Delta$ 2.5%)  
 セグメント利益 2,255 百万円 (同 +27.2%)

- ハイライト
  - ゼラチン部門:
    - (国内) 食用ゼラチン好調～食品市場が堅調持続。カプセル用は、健康食品向けが堅調に推移。
    - (海外) 食品市場、医薬・健康食品カプセルともに堅調で、海外法人の売上は好調。
  - ペプチド部門:
    - (国内) 震災による健食の消費マインド低下により売上伸び悩み。
    - (海外) 原発事故による中国の輸出制限で減少。
  - ケーシング部門:
    - 米国畜肉市場が好調。欧州輸出も堅調。
- ★減収の主要因は、円高による海外売上高の減殺。  
 増益要因は、国内売上増と海外仕入品の価格安。



# フォーミュラソリューション事業

売上高 10,329 百万円 (前期比 +2.9%)  
 セグメント利益 1,082 百万円 (同 +15.8%)

■ ハイライト

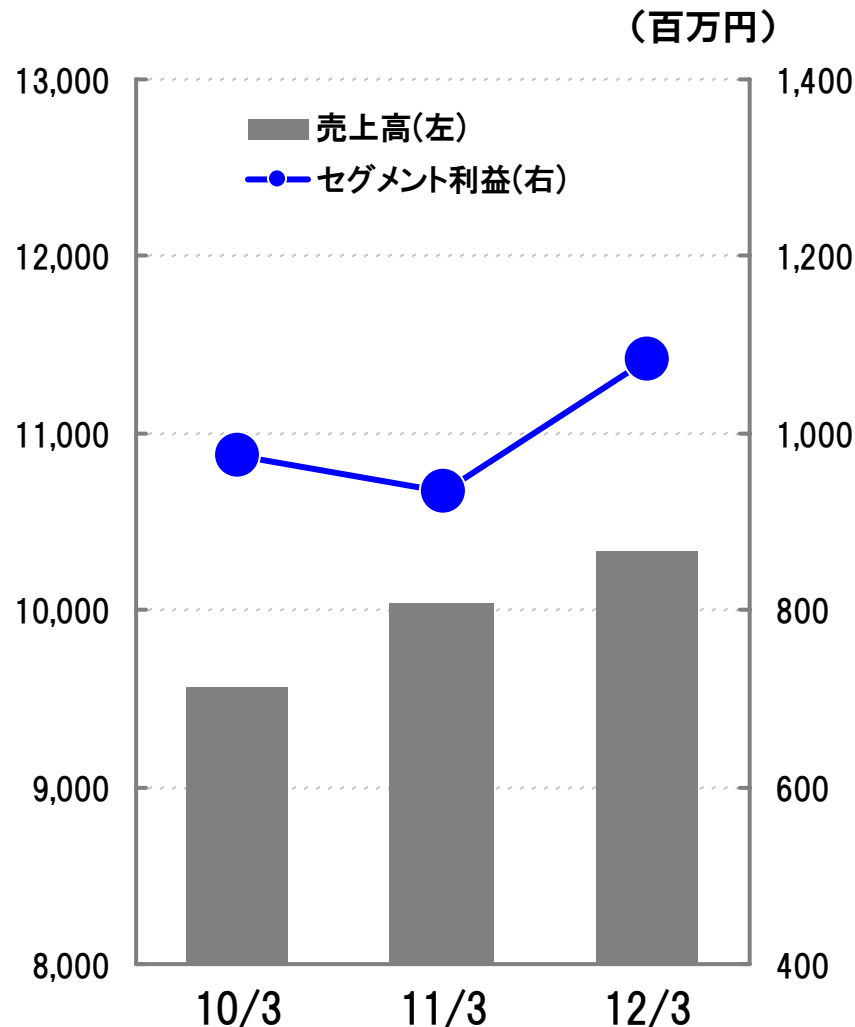
● 食品材料部門:

堅調な国内の食品市場に支えられ、デザート用ゲル化剤や畜肉製品用品質安定剤が好調に推移。

● 接着剤部門:

堅調な国内の食品市場に支えられ、飲料・食品業向けを主とする包装用が堅調に推移。石油製品、天然樹脂等の原材料価格高騰から製品価格の改定を実施。

★ 増収の主要因は、食品材料の販売増。  
 増益要因は、円高による食品材料の原材料安と接着剤の価格改定。



## 損益計算書 (P/L)

- 収益性が大幅に改善。主要因は、販売単価の上昇と円高による仕入単価の低下。
- 営業外収支:11/3期は90百万の為替差損発生、12/3期は3百万の為替差益。
- 特別損益:11/3期は海外子会社の退職給付制度終了益140百万が一時的に発生。

(百万円)		2010/3	2011/3	2012/3	増減
売上高		26,392	27,923	27,763	△0.6%
売上総利益		5,998	6,325	6,838	+8.1%
	利益率	22.7%	22.7%	24.6%	—
営業利益		1,407	1,486	2,015	+35.6%
	利益率	5.3%	5.3%	7.3%	—
経常利益		1,584	1,383	2,002	+44.7%
	利益率	6.0%	5.0%	7.2%	—
当期純利益		1,047	1,051	1,375	+30.8%
	利益率	4.0%	3.8%	5.0%	—

# 貸借対照表 (B/S)

- 公募増資により株主資本が増加  
⇒ 自己資本比率の向上  
(11/3 : 28.5% ⇒ 12/3 : 34.4%)
- 売掛債権・たな卸資産が増加

(百万円)	2011/3	2012/3	増減
流動資産	12,868	14,935	+2,067
現金・預金	1,558	2,098	+540
受取手形・売掛金	5,621	6,449	+827
たな卸資産	5,370	5,971	+600
その他流動資産	317	417	+99
固定資産	8,598	8,436	△162
有形固定資産	5,537	5,387	△150
無形固定資産	20	18	△1
投資等	3,040	3,030	△9
資産合計	21,466	23,371	+1,905

(百万円)	2011/3	2012/3	増減
流動負債	8,765	9,176	+411
支払手形・買掛金	3,537	3,476	△60
短期借入金・社債等	3,002	3,133	+130
その他流動負債	2,225	2,565	+340
固定負債	6,516	6,087	△428
長期借入金等	3,916	3,461	△454
退職給付引当金	2,162	2,158	△3
その他固定負債	438	467	+29
負債合計	15,281	15,263	△17
株主資本	7,560	9,865	+2,304
その他包括利益累計額合計	△1,435	△1,832	△397
少数株主持分	59	74	+15
純資産合計	6,185	8,108	+1,923
負債純資産合計	21,466	23,371	+1,905

# キャッシュ・フロー計算書 (C/F)

- 営業CF: 売掛債権(+842百万円)、たな卸資産(+631百万円)により減少。
- 投資CF: 有形固定資産取得および関係子会社株式取得の減少により支出減少。
- 財務CF: 公募増資による収入(1,404百万円)により増加。

(百万円)	2010/3	2011/3	2012/3
営業活動によるキャッシュ・フロー	738	1,570	568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△587	△1,094	△733
フリーキャッシュ・フロー	150	475	△165
財務活動によるキャッシュ・フロー	△212	△363	713
現金及び現金同等品の増加額	△58	70	540
現金及び現金同等品の期首残高	1,526	1,467	1,538
現金及び現金同等品の期末残高	1,467	1,538	2,078



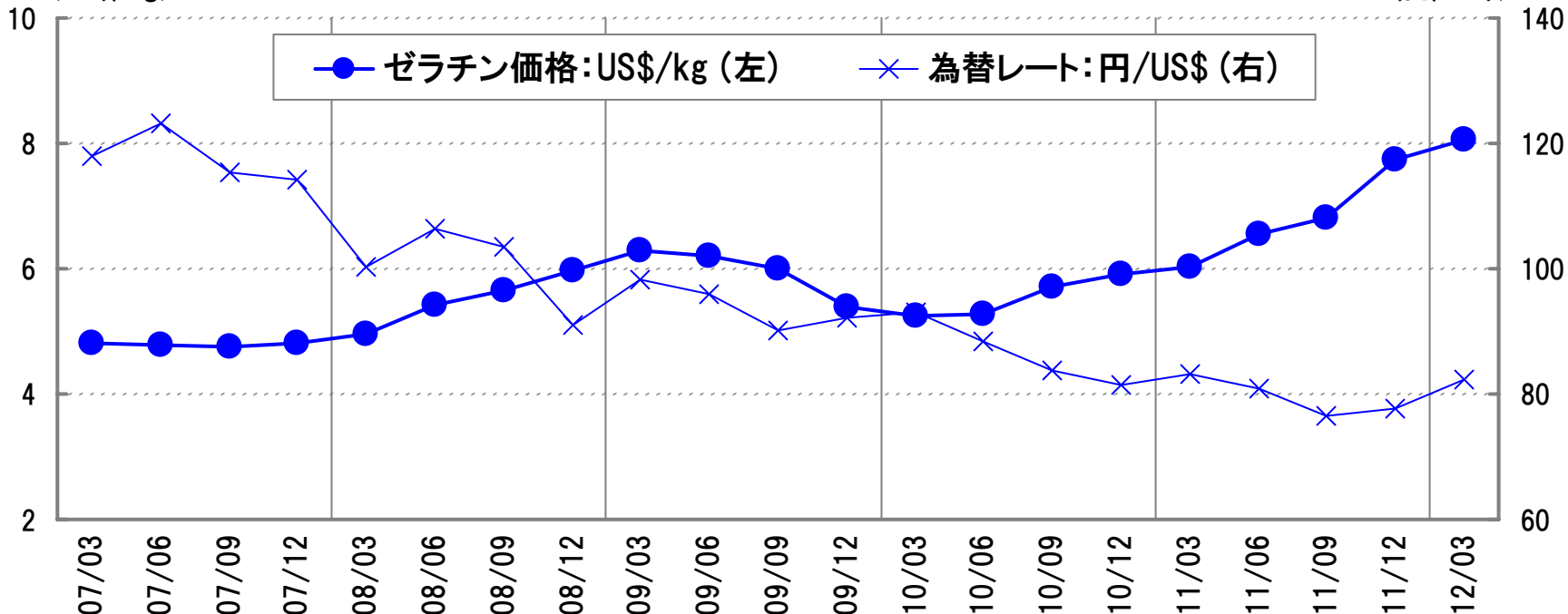
# 3. 2013年3月期見通し、 中期・長期展望

# 今期外部環境の認識

- ゼラチン国際価格は、需要増加、原料タイトを背景に高止まり。
- 円高は継続。
- 中国、インド等、アジア諸国の経済成長は堅調。コラーゲンケーシング・ゼラチン・ペプチドの需要は伸長。

ゼラチン価格  
(US\$/kg)

期末レート  
(円/US\$)



# 2013年3月期見通し

- **売上高** ゼラチン・ペプチドを中心とする販売拡大等により、前期比+4.1%の増収。
- **営業利益** 増収・コスト削減効果およびコンシューマ商品の積極的PRによる販管費増で、12/3期比+2.7%の増益。
- **当期純利益** 大阪工場の旧設備撤去で、100百万円の特別損失を予定。

		(百万円)				
		2011/3	2012/3	2013/3 (計画)	12/3期比	11/3期比
売上高		27,923	27,763	28,900	+4.1%	+3.5%
売上総利益		6,325	6,838	7,220	+5.6%	+14.1%
	利益率	22.7%	24.6%	25.0%	—	—
営業利益		1,486	2,015	2,070	+2.7%	+39.2%
	利益率	5.3%	7.3%	7.2%	—	—
経常利益		1,383	2,002	2,100	+4.9%	+51.8%
	利益率	5.0%	7.2%	7.3%	—	—
当期純利益		1,051	1,375	1,370	△0.4%	+30.3%
	利益率	3.8%	5.0%	4.7%	—	—

## 各セグメント別売上見通し

### ■ コラーゲン素材事業

ゼラチンは、国内外の拡販および海外での価格改定。ペプチドは、国内拡販に加え、中国販売を本格化。ケーシングは、北米拡販および中国での販売開始。これらの施策で増収増益を目指す。

### ■ フォーミュラソリューション事業

食品材料は、食市場での販売拡大で増収。原材料価格の上昇やPRキャンペーンによる販管費増などを折り込み、減益。接着剤は、一部製品の事業譲渡、電子本普及による製本用の売上減少から、減収・減益で計画。

	売 上			セグメント利益		
	2012/3 (実績)	2013/3 (計画)	増減	2012/3 (実績)	2013/3 (計画)	増減
(百万円)						
コラーゲン素材事業	17,433	18,500	+6.1%	2,255	2,460	+9.0%
フォーミュラソリューション事業	10,329	10,400	+0.7%	1,082	1,000	△7.7%
(消去又は全社)	—	—	—	△1,323	△1,390	—
合 計	27,763	28,900	+4.1%	2,015	2,070	+2.7%

# 投資計画

(百万円)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3 (計画)
設備投資額	603	946	673	2,852
減価償却費	818	898	841	888

## 2013/3 主要な設備投資の概要

(百万円)	投資額	投資効果(目標)
国内ゼラチン省エネ設備導入	330	2014/3月期に CO <sub>2</sub> 25%削減 (2011/3期対比)
北米ケーシング製造設備の更新	640	2014/3月期に、約30%の生産性改善
北米ペプチド生産工場の建設	1,000	生産規模1,000トン (2014年3月期上期稼働)

# 株主還元

## <配当金>

株主の皆様への利益還元を

重要課題と認識、増配(+2円)予定。

2013/3期予想:

12円(中間普通配6円+期末普通配6円)

## <株主優待制度>(新設)

- 100株～500株未満:  
1,000円相当の(自社商品用)お買物優待券
- 500株以上:  
3,000円相当の自社商品(健康食品等)

## 株式分布状況 (2012.3末 現在)

	株主数	株式数
個人	96.9%	41.5%
事業法人	1.7%	38.9%
証券会社	0.6%	1.3%
金融機関	0.4%	17.5%
海外他	0.4%	0.8%
合計	3,812名	15,770千株

# 主要指標

(百万円)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3 (計画)
売上高	26,392	27,923	27,763	28,900
海外売上比率	29.8%	29.5%	27.8%	28.0%
営業利益	1,407	1,486	2,015	2,070
営業利益率	5.3%	5.3%	7.3%	7.2%
当期純利益	1,047	1,051	1,375	1,370
当期純利益率	4.0%	3.8%	5.0%	4.7%
自己資本	5,932	6,125	8,033	8,855
自己資本比率	27.2%	28.5%	34.4%	36.2%

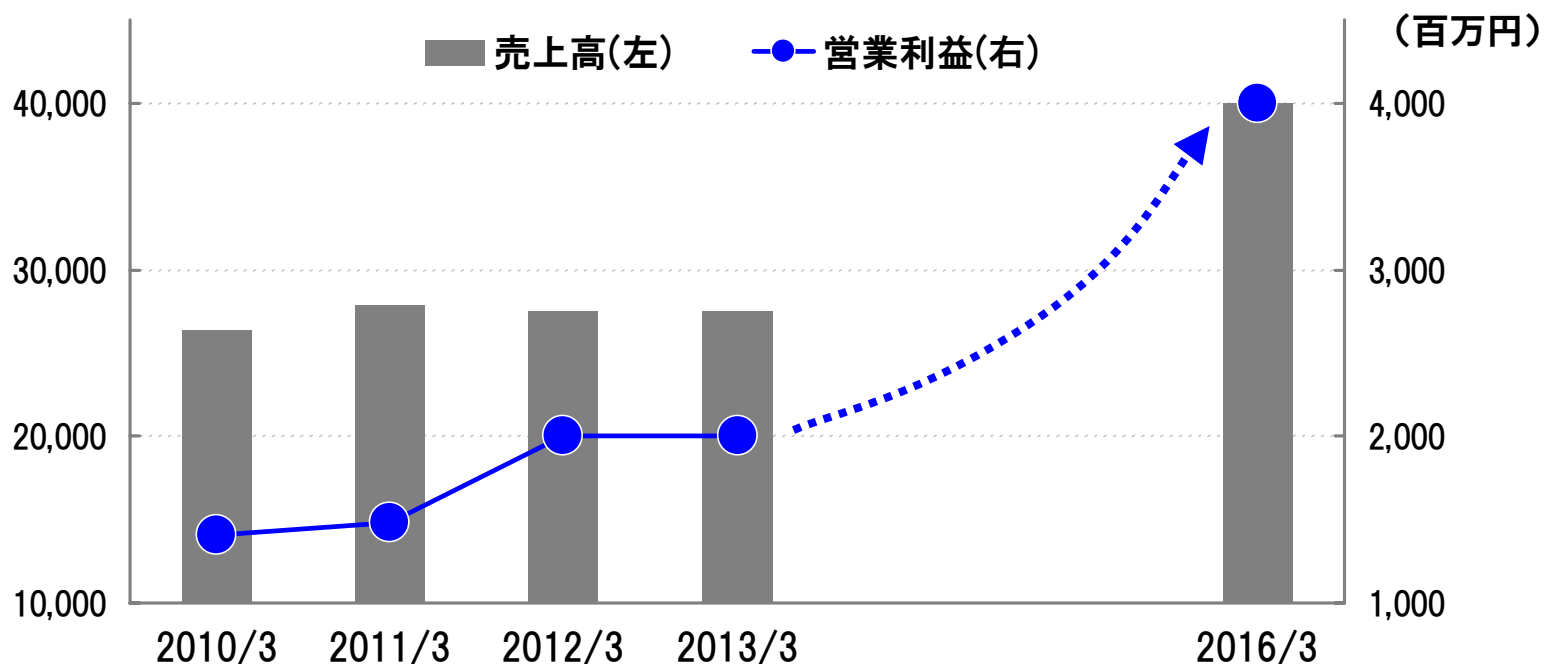
## 今期の取り組み

セグメント	部門	備 考
コラーゲン 素材	ゼラチン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北米でのゼラチン販売拡大および価格改定</li> <li>・ アジアでのゼラチン販売拡大</li> <li>・ 日本での高付加価値ゼラチンの販売拡大</li> <li>・ 新規原料拠点の開拓と調達</li> </ul>
	ペプチド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国での販売拡大</li> <li>・ 日本での販売拡大</li> </ul>
	ケーシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産設備更新による生産性向上</li> <li>・ 中国合弁事業の開始</li> </ul>
	ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療用コラーゲン、ゼラチンの国内外での普及</li> </ul>
フォーミュラ ソリューション	食品材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンビニ、シニア食市場での開発商品の販売拡大</li> </ul>
	接着剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新開発ホットメルト形接着剤の販売拡大</li> <li>・ 高機能樹脂(電子機器等向けシーラント)販売拡大</li> </ul>
全社	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省電力・省エネ取り組みによるCO<sub>2</sub>削減と製造コストダウン</li> </ul>



## 中長期展望

- アジアに製造・販売拠点の基盤をもつ当社の強みを、事業成長の機会と認識。
- 中国・インド等、アジア諸国の経済成長は継続し、ゼラチン・ペプチド・ケーシングともに堅調な需要増が見込んでいます。
- 世界的には原料はタイトで、南米では原料不足によりゼラチン工場の稼働率が低下。
- グループの供給能力増強と原料調達力強化、製品提案力によって事業拡大を目指します。



新中期経営計画「CFG戦略2016」

# 「アジア圧倒的No.1、 世界オンリーワン」企業へ

2016年3月期 連結売上高： 400億円  
連結営業利益： 40億円

ご清聴ありがとうございました



グローバル・ゼラチンスペシャリスト  
新田ゼラチン株式会社

# 4. 卷末資料

## 経営理念

社是

愛と信を基盤とし  
最高の技術と  
最大の活力により  
社業を発展させ  
もって社会に貢献し  
希望ある人生をきずこう



ハンドブック  
(経営理念、中期経営計画、行動指針)

# 起業の歴史

新田長次郎

20歳で松山から単身大阪へ

製革工場に奉公する

類なき熱意と工夫、起業

新田帯革製造所

動力伝導用  
革ベルトを  
日本で初めて製造

革ベルト製造用タンニン調達

カシワ樹皮を求め  
北海道に広大な  
原野を購入、開拓  
(伐採、植樹、牧地・農地化)

事業拡大と多角化

皮以外のゴムベルト製造

ベルト製造副産物の  
牛皮片等から  
「にかわ」を製造

タンニン製造副産物の  
カシワ樹幹材や雑木から  
合板(ベニヤ板)を生産

伐採後の平地は牧畜業に

新田ベルト  
ニッタ(株)

1885年  
明治18年

新田ゴム工業

1914年  
大正3年

新田膠質工業

新田ゼラチン(株)

1918年  
大正7年

新田ベニヤ  
(株)ニッタクス

1919年  
大正8年

新田牧場

1948年  
昭和23年

# 市場変化への対応

ニカワ・工業用ゼラチン  
食用・医薬用ゼラチン  
コラーゲン  
ゲーシノール  
コラーゲン  
ペプチド

1918年 にかわ・ゼラチンの製造開始: マッチ、レコードジャケット

1960年代 マイクロカプセル: 感圧紙

1980年代 銀塩写真: 写真フィルム、印画紙

1990年代 菓子: グミ、ソフトキャンディー

2000年代 総菜: コンビニ総菜・デザート  
医薬品・健康食品: カプセル

2010年代 シニア向け食品: 嚥下食  
タンパク食

.... 機能性ペプチド  
医療用ゼラチン・コラーゲン

## 沿革

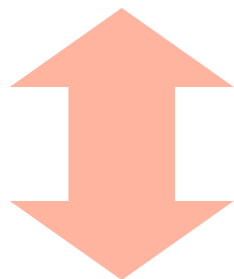
1918年	大正7年	1月	日本で初めてゼラチン・にかわの製造を開始
1935年	昭和10年	1月	八尾工場竣工 (現 大阪工場)
1945年	昭和20年	2月	新田膠質工業株式会社を設立
1960年	昭和35年	4月	商号を新田ゼラチン株式会社に変更
1968年	昭和43年	2月	彦根ゼラチン株式会社を設立 (現 連結子会社)
1971年	昭和46年	3月	接着剤事業部発足
1974年	昭和49年	8月	食材事業部発足
1975年	昭和50年	4月	Nitta Gelatin India Ltd. (インド)を設立 (現 関連会社)
1979年	昭和54年	7月	Nittta Gelatin NA Inc.(米国)を設立 (現 連結子会社)
1982年	昭和57年	4月	ボスティック・ニッタ株式会社を設立 (現 関連会社)
1982年	昭和57年	11月	奈良工場竣工
1990年	平成2年	5月	Nitta Gelatin Canada Inc.(カナダ)を設立 (現 連結子会社)
1996年	平成8年	8月	Nitta Casings Inc.(米国)を設立 (現 連結子会社)
			Nitta Casings (Canada) Inc.(カナダ)を設立 (現 連結子会社)
1998年	平成10年	4月	株式会社アイビスを設立 (現 連結子会社)
1999年	平成11年	1月	Kerala Chemicals & Protein Ltd.ゼラチン製造工場竣工 (現・関連会社)
2004年	平成16年	4月	株式会社アルマコーポレーションを設立 (現 連結子会社)
2004年	平成16年	9月	株式会社ニッタバイオラボを設立 (現 連結子会社)
2004年	平成16年	12月	Nitta Gelatin Holdings Inc.(米国)を設立 (現 連結子会社)
			Nitta Gelatin USA Inc.(米国)を設立 (現 連結子会社)
2010年	平成22年	12月	広東百維生物科技有限公司(中国)を設立 (現 関連会社)
2011年	平成23年	9月	上海新田明膠有限公司(中国)を設立 (現 連結子会社)
2011年	平成23年	12月	東京証券取引所市場第二部上場



# 当社の成長戦略

海外戦略

アジア・北米  
での事業拡大

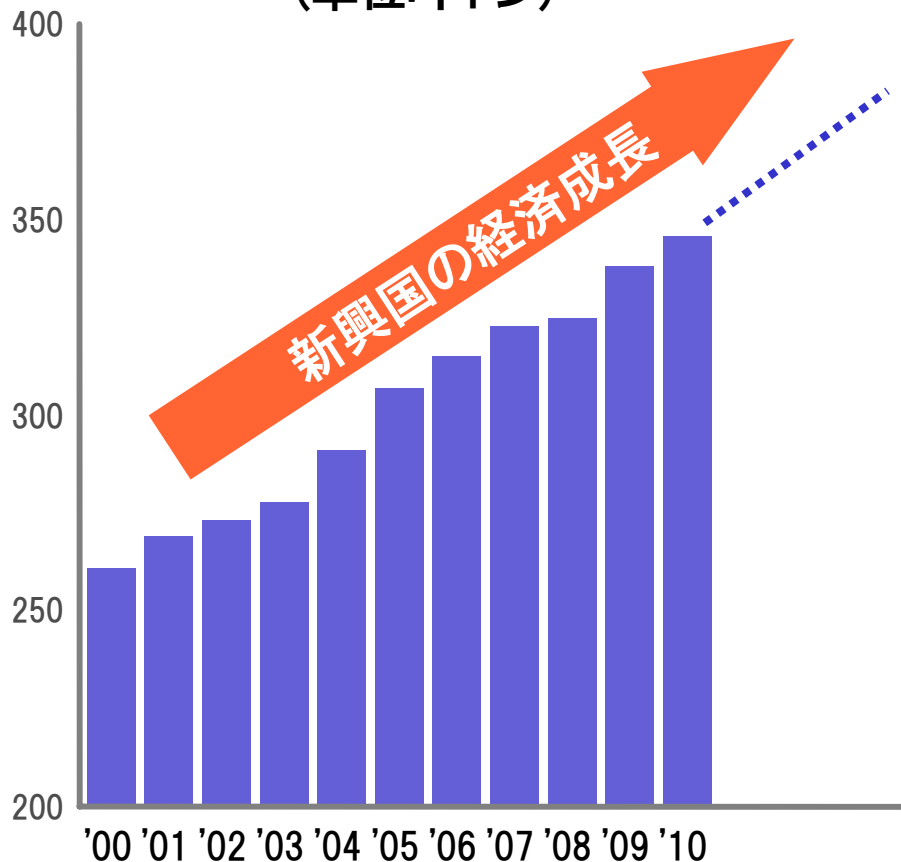


国内戦略

付加価値  
創造・提案

# ゼラチン市場は古くて新しいグローバルニッチ市場

世界のゼラチン生産動向  
(単位:千トン)



欧州ゼラチン工業組合,環太平洋ゼラチン工業組合資料  
を当社で集計

人口動態に左右され  
GDPと相関

アジア圏の経済成長

**ゼラチン需要拡大**

アジア主要国の経済成長率推移

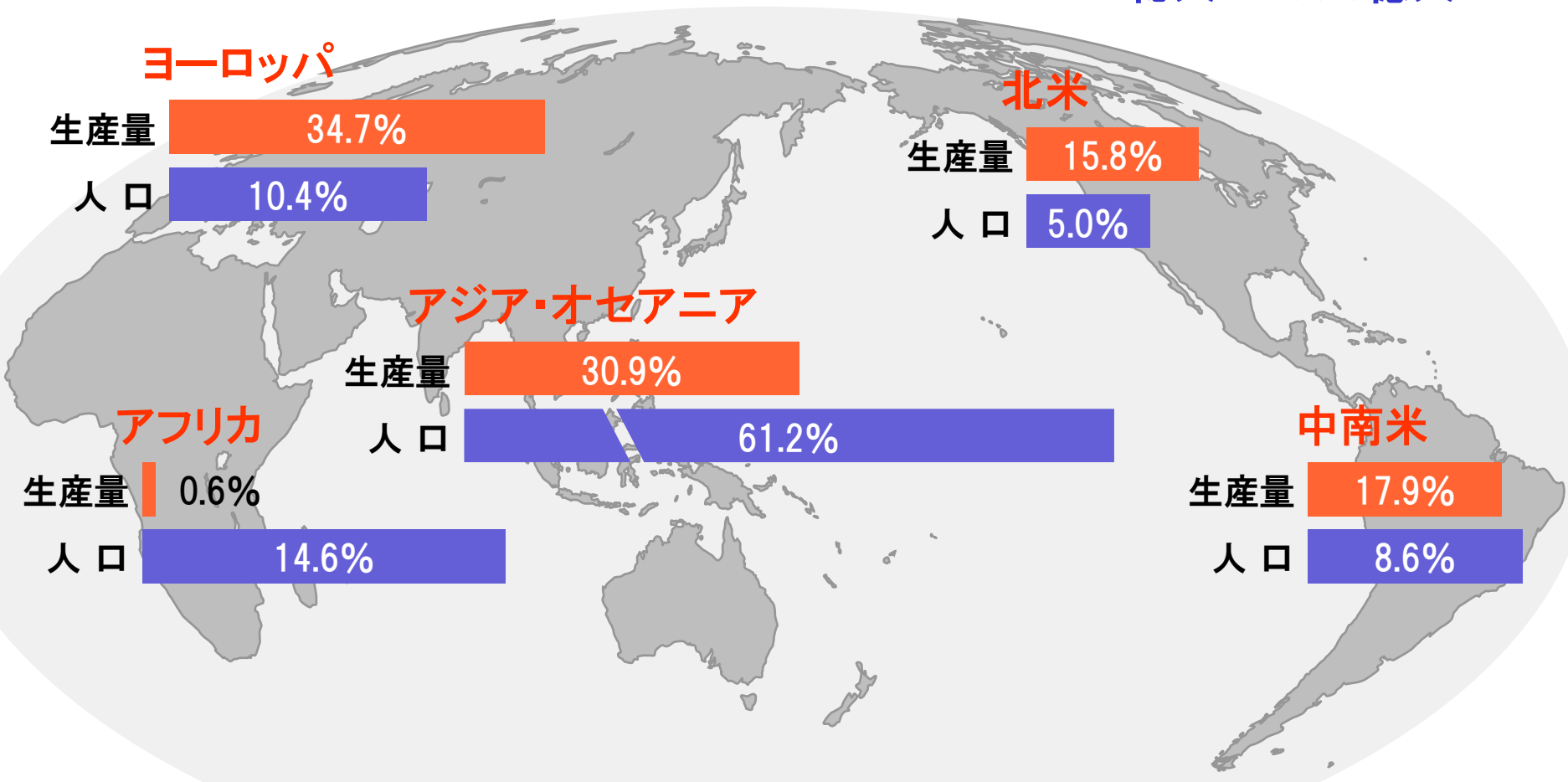
国名	人口 (100万人)	2009	2010	2011 予測
中国	1341.4	9.2	10.3	9.6
インド	1215.9	6.8	10.4	8.2
インドネシア	234.4	4.6	6.1	6.2
マレーシア	28.3	-1.7	7.2	5.5
フィリピン	94.0	1.1	7.3	5.0
シンガポール	5.2	-0.8	14.5	5.2
タイ	63.9	-2.3	7.8	4.0
ベトナム	88.3	5.3	6.8	6.3

出典:IMF - World Economic Outlook

# ゼラチン地域別生産量(2010年)

総生産量:34.6万トン

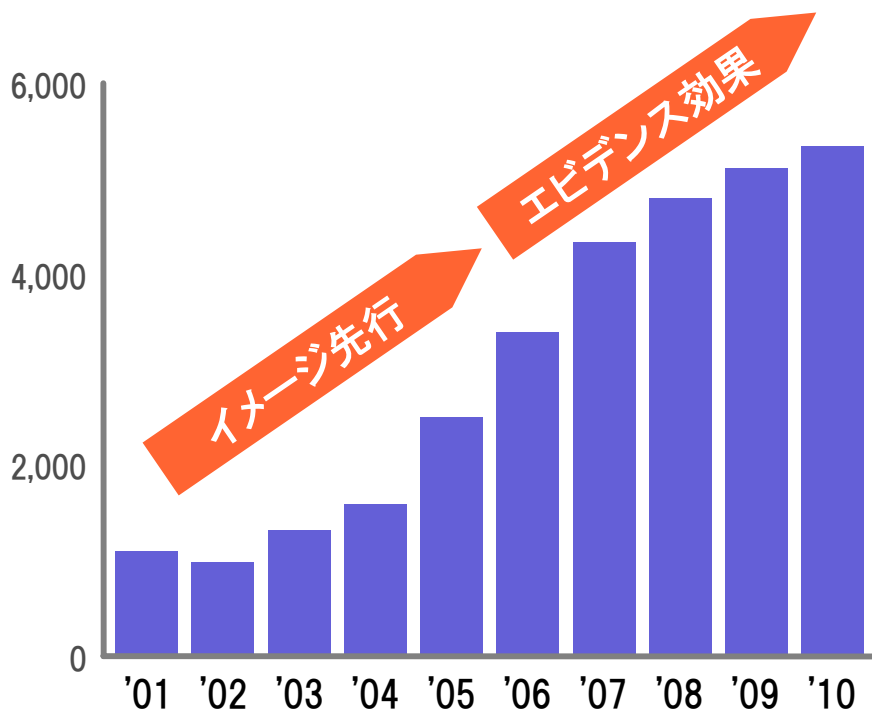
総人口:68.3億人



生産量:新田ゼラチン推定値

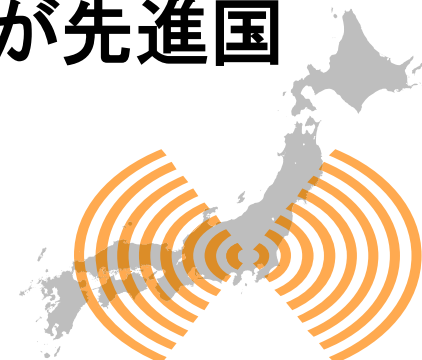
# コラーゲンペプチドの用途開発は日本が先進国

日本におけるコラーゲンペプチド  
販売量推移 (単位:トン)



出典:『日本ゼラチン・コラーゲンペプチド工業組合』

機能性研究:骨・関節・皮膚への効果



日本は世界への情報発信基地

若々しく元気でいたいなら、  
まずはコラーゲンについて  
知ってみては? おおたわ史絵

城西大学 真野 博 教授 著

城西大学 真野 博 教授 著

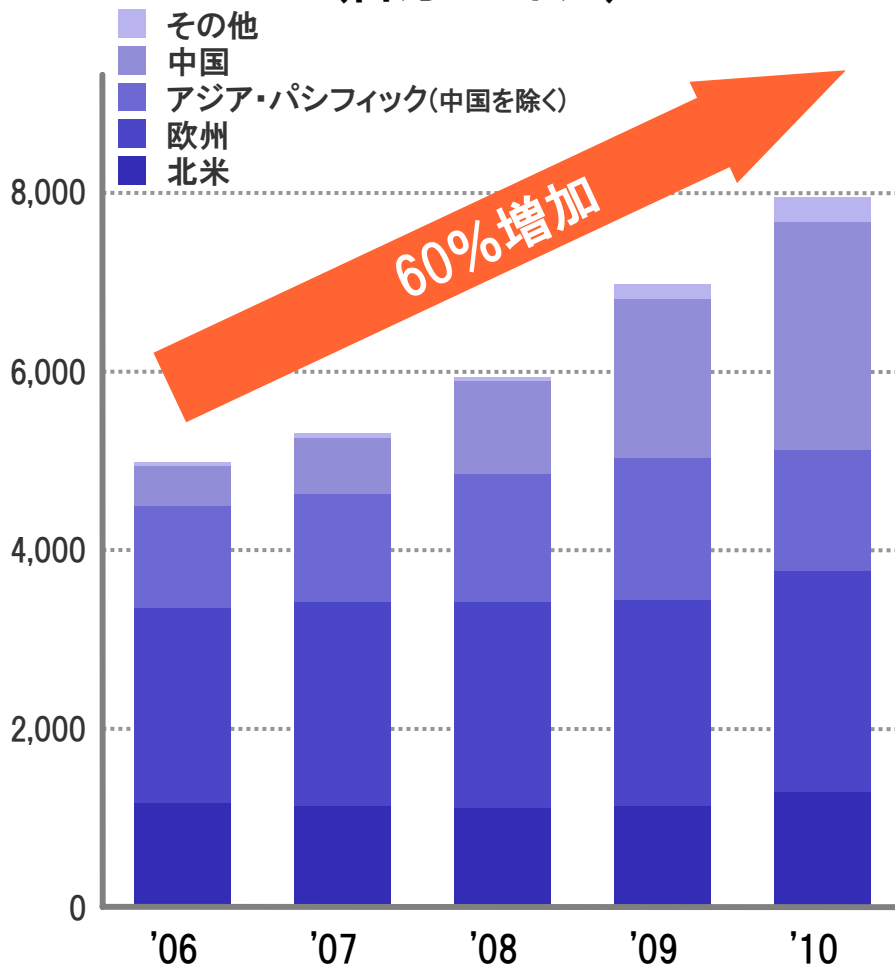
新田ゼラチン  
「コラーゲン」が「ミス」で  
臨床で関節症改善確認

各機関が「コラーゲン」の効果を認め、コラーゲンの研究が盛んに行われている。日本ゼラチン工業株式会社は、その中でも「コラーゲン」の効果を研究し、関節症の改善に効果的であることを確認した。この結果、関節症の患者にとって、コラーゲンは「ミス」ではなく、効果的な成分であることが明らかになった。

日本流通産業新聞 2011.01.01

# コラーゲンケーシングの市場拡大

コラーゲンケーシング生産量  
(百万メートル)



コラーゲンケーシング



ソーセージ製造

# コラーゲン素材事業＝原料調達力

## 食肉産業の副産物



ゼラチン10,000トン

## ご参考

日本のと畜頭数  
(2009年度)

牛 → 120万頭

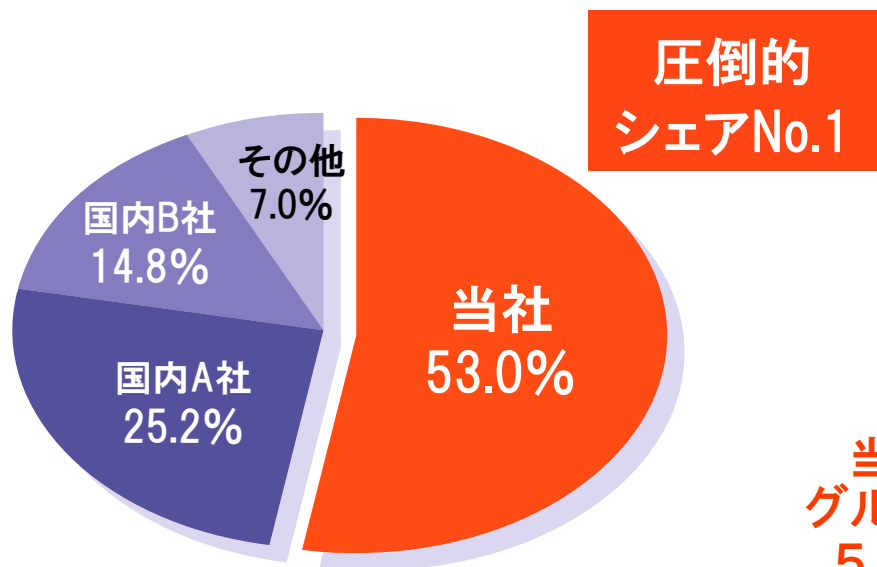
豚 → 1,600万頭

日本の養殖魚数  
(2008年度)

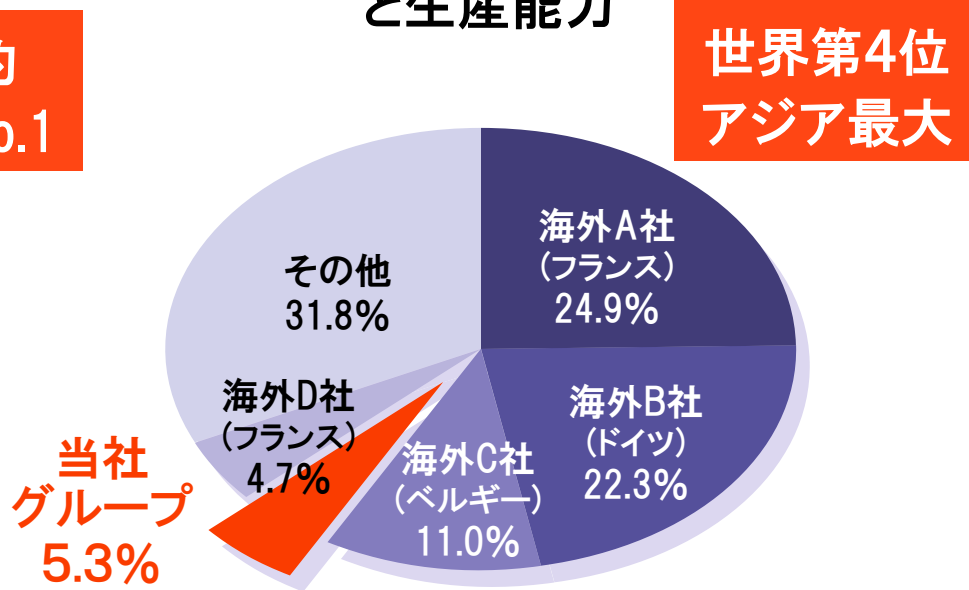
16億匹分

# ゼラチンシェア

日本でのゼラチン販売量



世界のゼラチン製造者と生産能力

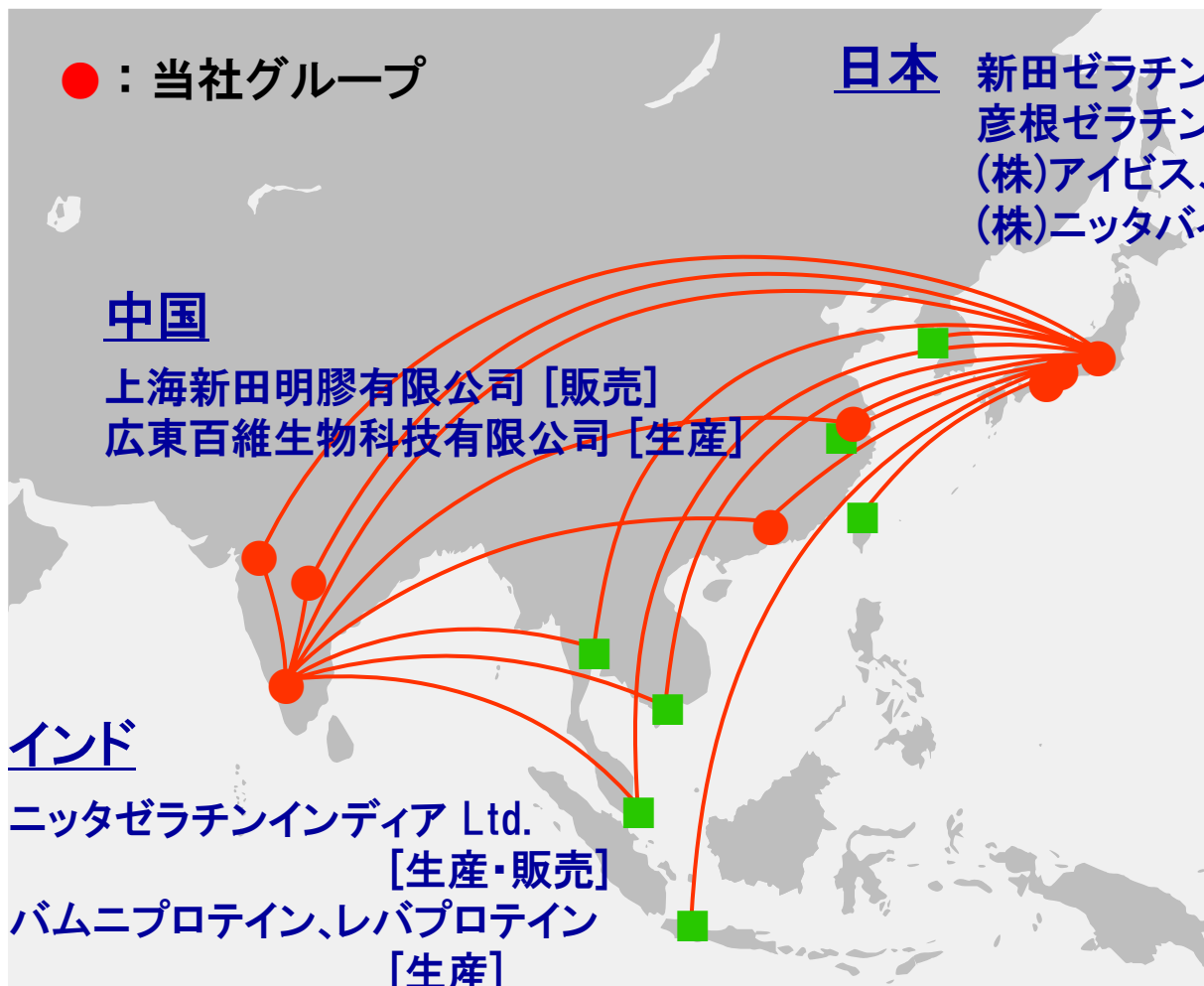


出典：『日本ゼラチン・コラーゲンペプチド工業組合』(2011年3月期)  
欧州ゼラチン工業組合、環太平洋ゼラチン工業組合資料を当社で集計

- 国内A社： 皮革関連、非皮革関連(ゼラチン部門、コラーゲン部門)、その他で事業展開。ゼラチンの一貫生産を取りやめ、国内外の協力工場で委託生産。
- 海外A社： グローバルフードカンパニーの1事業部門
- 海外B社： ゼラチンおよび周辺事業特化型企业
- 海外C社： 国際化学品メーカーの1事業部門

# アジアフォーカス

## アジア圏(9ヶ国)での事業拡大の基盤は整備済



- : 海外代理店
- 韓国
  - 中国
  - 台湾
  - ベトナム
  - シンガポール
  - インドネシア
  - タイ